

自分で動き回れるからなんです。少子高齢化が進むと集落を超えて何か取り組む必要があります。あと、緑水園周辺を整備すればもつと人が集まると思います。地産地消の食材には恵まれてますから、それを使った本物の味を提供するレストランであるとか。

立見津子 医療機関や買い物があるう少し近くにあれば良いねと話します。あと、畑は自分が倒れるまで何か作れるところですね。他県では、お年寄りが作った野菜を若者が買い取り、それを関西の方で商売をしてくる取り組みがあるそうです。お年寄りも収入があれば生きがいを持てるし、楽しみにもなるのではないかと感じます。

町長 私は「良く分かち、良く結ぶ」という事だと思えます。各地域が自分たちの長所短所を自覚して、初めて他の地域と連携を図ったり、分かち合ったり出来るのではないでしようか。

それから公共交通はなんとして確保する必要がありますと考えますので、住民の皆さんにも利用していただくかないと解決しないと思えます。



坂本 昭文 町長

普段から公共交通を使うという協力をお願いしたいと思えます。南さいはくでは共助交通システムの取り組みをやっていますが、効果的な取り組みを町の施策として、住民の皆さんの足の確保は保証していかないといけないと思えます。

緑水園の周辺開発は、一番交通量が少なく人が集まらない場所に集客施設があるので、努力が必要だと思えます。これからも今ある施設の有効利用、イベント計画などの賑わいを作ったりしなければならぬと思えました。

それから、新図書館が今年天萬庁舎1階に完成しましたので、いかに住民の皆様の暮らしに役立てるかなどの活用について、色々と開発していきたいと考えております。

「空き家の利用法を考えてみては」

—南部町の定住対策

野口 南部町では大切な事業の一つに定住対策と言うものがあります。皆さんは他の地域からこちらを選ばれて来られたわけですが、もっとこういうアピールをすればと考えられている事はありませんか。

立見正行 全国的にイターン希望者は少ないと思えます。まずインターネットや情報誌を活用して、まず南部町を広く知って貰うことだと思えます。良いところはたくさんあるのに知られてないわけですから。

藤原清道 私は5年前から農家をやってますが、農家になるのも難しい。まず円山では農地を5反取得、または借りるのですが、米作りをするとなるとそこから難しい。もう少し土地を細分化するなどの規制緩和すればいいと思えます。夢のような話ですが。

野口 立見さんも農業をされているようですが、どうですか。

立見正行 実際定年後の第2の人生、土いじりでもやるかと考える人も

多いのです。ただ、たくさん土地だと設備投資が必要、でもそんなお金は無い。難しいですね。

坂田悦男 30年ぶりに帰ってきたら、周りが空き家や独居老人が多くなっている状況に変わってました。空き家の活用を地域で何とかしたいと思いません。

町長 イターン、Uターンの方が田舎暮らしを夢見て、農業をやりたいという事は良く理解できます。ただ農地の細分化は難しいので、貸し農園を利用して田舎暮らしに役立てていただけたらと思えます。

あと、インターネットの時代ですからホームページを今以上に充実して、面白くて内容のある物にしな



野口 隆資